

2024 年度 事業計画書

学校法人 白梅学園

目 次

| | |
|--------------------------------|----|
| [I]2024 年度理事長方針..... | 1 |
| 学校法人白梅学園役員一覧（2024 年 4 月） | 2 |
| 設置学校の概要 | 3 |
| 学園組織図（2024 年 4 月） | 5 |
| [II]2024 年度各部門の事業計画..... | 6 |
| 1. 学園・法人事務局 | 7 |
| 2. 白梅学園大学／大学院／短期大学 | 12 |
| 3. 白梅学園高等学校 | 22 |
| 4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部 | 24 |
| 5. 白梅学園大学附属白梅幼稚園 | 25 |
| [III]2024 年度予算..... | 32 |
| 1. 予算編成方針 | 32 |
| 2. 収支見通し | 33 |
| 3. 資金収支予算の概要 | 35 |
| 4. 事業活動収支計算書 | 36 |
| 5. 学生生徒園児数／本務教員数 | 38 |

[I] 2024 年度理事長方針

2024 年度は、課題である「超少子化」に対する緊張感を新たにし、定員の確保をはじめとした財政基盤の安定化と、教育水準の維持・発展をするため、以下に述べる重要課題に対処する。

【白梅学園創立 80 周年記念事業】

1. 2026 年度の供用開始に向けて、大学・短期大学新棟の建設に向けて計画を進める。
但し、現下の財政状況及び物価高騰などに応じて、柔軟に対応する。
2. 白梅学園創立 80 周年記念募金を継続実施する。
3. 学園史（補遺版）を編纂する。

【白梅学園グランドデザインの策定／第 2 期中期実行計画の初年度】

「白梅学園グランドデザイン」を 2025 年 10 月に策定する。「白梅学園グランドデザイン」の基となる各学校の「教学グランドデザイン」及び「経営グランドデザイン（財政計画、キャンパス計画等）」について、2023 年度に設置した各学校及び法人の分科会にて検討を行う。また、2023 年度に策定した第 2 期中期実行計画（2024 年～2028 年度）の初年度であり、グランドデザインに関する議論の進捗状況に応じて、その内容と第 2 期中期実行計画との連携を計る。

【ガバナンス改革】

2025 年 4 月に施行予定の改正私立学校法に基づくガバナンス改革のための諸準備（寄附行為改正、ガバナンス・コードの改正等）を実施する。

【中長期財政再建策の検討】

上記のすべての土台となる財政基盤の確立・安定のための諸施策を推進し、「中長期財政再建策」を検討する。

（理事長 井原 徹）

学校法人白梅学園役員一覧（2024年4月）

理事長 井原 徹

理事 小玉 重夫

理事 倉澤 壽之

理事 武内 彰

理事 南 和男

理事 本山 方子

理事 兼清 伸生

理事 樋口 秋夫

理事 増田 昭一

理事 長倉 澄

理事 昼間 守仁

理事 西井 泰彦

理事 細江 卓朗

理事 牧野 光昭

監事 池田 勝

監事 金子 武弘

設置学校の概要

白梅学園大学大学院

| 研究科・専攻科名 | | 入学定員 | 収容定員 |
|-------------------|------|------|------|
| 子ども学研究科 子ども学専攻 | 修士課程 | 5 | 10 |
| | 博士課程 | 2 | 6 |
| 合 計 | | 7 | 16 |

白梅学園大学

| | 学科名 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 |
|-------|-------------|------|-------|-------|
| 子ども学部 | 子ども学科 | 120 | 6 | 492 |
| | 発達臨床学科(※1) | — | — | — |
| | 家族・地域支援学科 | 40 | 2 | 164 |
| | 子ども心理学科(※2) | 40 | 2 | 164 |
| | 教育学科(※2) | 50 | 2 | 204 |
| 合 計 | | 250 | 12 | 1,024 |

※1：2024年4月募集停止 ※2：2024年4月新設

白梅学園短期大学

| 学科科名 | 入学定員 | 収容定員 |
|------|------|------|
| 保育科 | 80 | 160 |
| 合 計 | 80 | 160 |

白梅学園高等学校

| | | 入学定員 | 収容定員 |
|----------|---------|------|-------|
| 全日制課程普通科 | 高等部 | 280 | 840 |
| | 清修中高一貫部 | 60 | 180 |
| 合 計 | | 340 | 1,020 |

白梅学園清修中学校

| | 入学定員 | 収容定員 |
|-----------|------|------|
| 白梅学園清修中学校 | 60 | 180 |
| 合 計 | 60 | 180 |

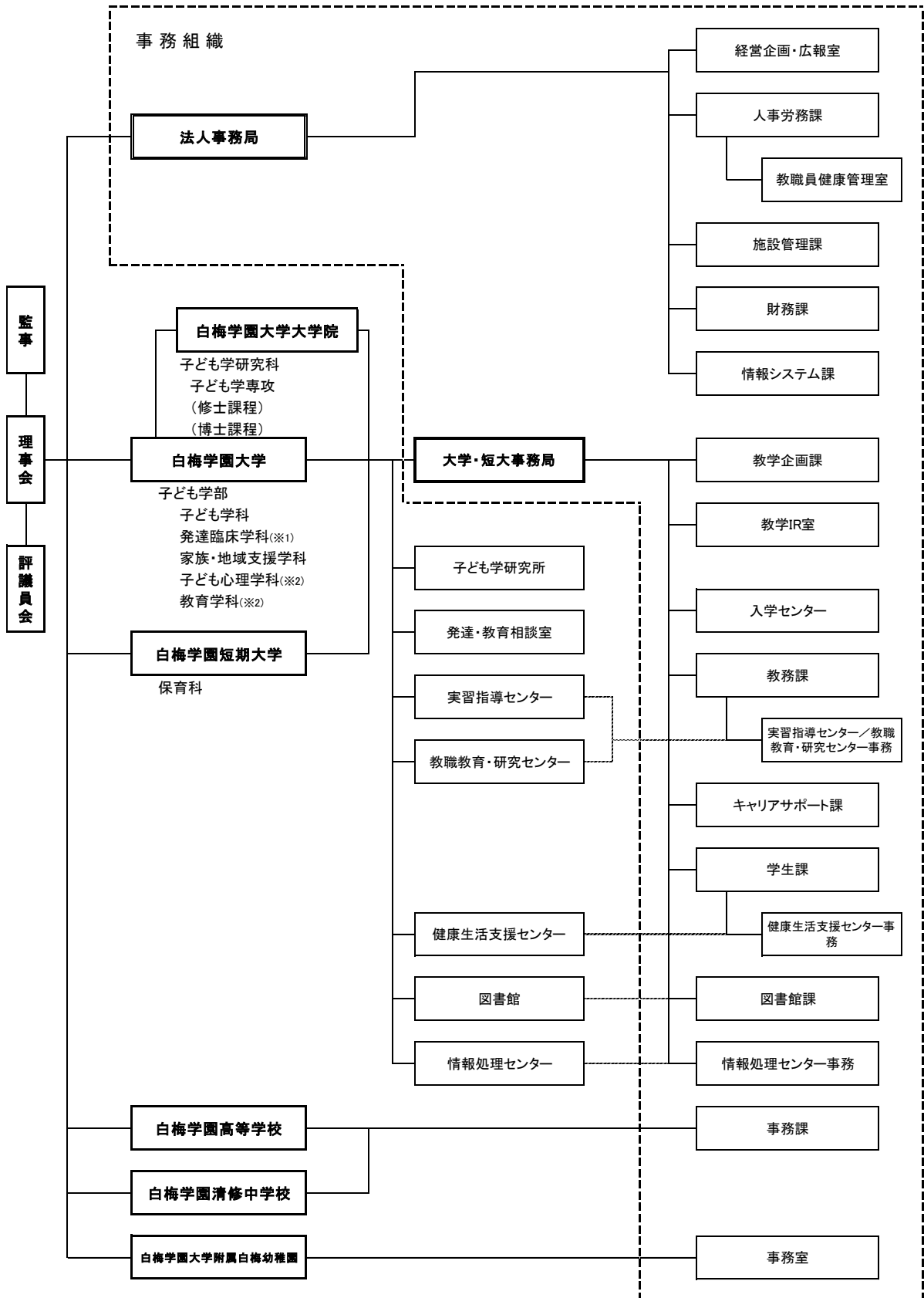
白梅学園大学附属白梅幼稚園

| | 入学定員 | 収容定員 |
|---------------|------|------|
| 白梅学園大学附属白梅幼稚園 | 70 | 210 |
| 合 計 | 70 | 210 |

白梅学園合計

| 学科名等 | 入学定員 | 編入学定員 | 収容定員 |
|---------------|------------|-----------|--------------|
| 白梅学園大学大学院 | 7 | - | 16 |
| 白梅学園大学 | 250 | 12 | 1,024 |
| 白梅学園短期大学 | 80 | - | 160 |
| 白梅学園高等学校 | 340 | - | 1,020 |
| 白梅学園清修中学校 | 60 | - | 180 |
| 白梅学園大学附属白梅幼稚園 | 70 | - | 210 |
| 合 計 | 807 | 12 | 2,610 |

学園組織図 (2024年4月)



※1: 2024年4月に募集停止
 ※2: 2024年4月に新設

[Ⅱ]2024 年度各部門の事業計画

2024 年度各部門の事業計画は下記の 17 項目で策定した。この項目に基づき、部門別に
関連する項目の主要事業について報告する。

【2024 年度事業計画 策定項目】

- [1]教育活動の推進
- [2]研究活動の推進
- [3]学生・生徒・園児支援の推進
- [4]学生・生徒・園児の確保
- [5]学園広報の推進
- [6]国際交流の推進
- [7]生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進
- [8]卒業生との連携等の推進
- [9]働き方・仕事の仕方の見直し
- [10]建学の精神の高揚
- [11]令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業
- [12]大学・短期大学新棟・施設中長期整備計画
- [13]財政再建計画
- [14]ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底
- [15]管理運営（施設改修・更新・労務他）
- [16]情報化教育/ICT
- [17]その他

1. 学園・法人事務局

【部門長方針及び重点取組】

我が国の人口減少は、予想を超えた速さで進んでおり、本学園の入学者・入園者数にも大きな変化がみられる。法人の経営・運営に当たっては、このような急速な環境変化の中で、本学園が教育・研究・社会貢献を継続的に実施できるよう、必要な対策を検討し、実施することが必要となる。第2期中期実行計画の最初の年となる2024年度は、同計画に基づく取組みを着実に進めるとともに、さらに中長期を見通した、本学園の将来像である「白梅学園グランドデザイン」を教学・経営の両面にまたがって策定し、必要な対策を実施する取組みに着手する。

2024年度の重点取組は、以下の5点である。

(1) 白梅学園グランドデザインの検討

第2期中期実行計画は2024年度から2028年度までの5年間を対象とするが、さらに中長期を見通した学園全体の将来像をまとめるため、2026年度からの概ね10年程度を対象期間とする教学面、経営面の双方を含めた「白梅学園グランドデザイン」の検討を継続する。法人事務局は主に経営グランドデザインの検討を行うとともに、各学校の教学グランドデザイン策定に向け、経営視点からの情報提供を行い、議論の活性化・実質化を図る。年内に中間報告をまとめ、全体会議や各分科会でのさらなる検討につなげる。また、グランドデザインに関する議論の進捗状況に応じて、その内容と第2期中期実行計画との連携を図る。

(2) 大学・短期大学新棟建設の取組（実施設計、工事着工）

大学・短期大学新棟の2026年4月の供用開始に向けて、2023年度に行った基本設計を基に実施設計を完了し、新棟建設に着工する計画である。ただし、資材高騰等の厳しい環境下にあること、また、本学園の現下の財政状況も踏まえ、学生の学習環境の改善を十分念頭に置きつつ、ふさわしい施設整備に柔軟に対応する。

(3) 学園の財政構造の見直し

本学の特徴を踏まえ、グランドデザイン（主に経営グランドデザイン）の検討と並行して、財政構造の見直しを進める。人件費を含む支出構造の見直し、学生納付金等収入の確保、収入の多元化、各部門の自立的運営などの観点から課題を整理し、対策を検討する。

(4) 白梅学園創立80周年記念事業

2023年度から2027年度までの5年間で2億円を目標として、引き続き白梅学園創立80周年記念事業募金を行う。2023年度には1億円超（申込を含む）の募金を頂いたところであり、2024年度は卒業生や教職員OG・OB、企業、地域の方々等に対して、本格的な募金活動を行う。また、年史編纂に向けて、引き続き、大学・短期大学史資料の収集と整理を行う。

(5) 私学法改正対応・ガバナンス改革

2025年4月の改正私学法の施行を見据え、役員・評議員の構成・選考方法の検討、現在の役員・評議員の任期延長を含む寄附行為の変更、改正私学法の規定に基づく内部統制システムの整備のために必要な体制整備等の対応を行う。

（事務局長 舟橋 徹）

【主要な事業計画】

(学園・法人事務局)

| 5. 学園広報の推進 | | |
|------------------------|--|---|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 情報の積極的な発信 | ・ 広報媒体の有効活用と機能の充実のため、ホームページを充実させ機能強化を図る。新しい広報媒体 (SNS 等) を積極的に活用する。 | ・ WEB 閲覧状況の分析・検証を実施する。 ・ 各部門の取り組み、近況報告を1つにまとめ、一体感を持って地域社会に発信する。 |
| 9. 働き方・仕事の仕方の見直し | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 事務体制・機能の強化 | ①1 期に取り組んだ組織の見直しを継続し、誰もが活躍できる体制を構築する。特に業務に優先順位をつけて整理することによって時間を創出し、横断的に業務を行う余力のある組織を目指す。 ②事務職員のさらなる質的向上を目指し、評価と改善の見える化を行い、情報収集、発信・提案ができる職員の育成を図る。 ③職員のモチベーションを向上させてより良い業務を行うために、働きやすい職場を目指し、労務課題を整理する。 | ①仕事評価基準の策定 ②事務職員のキャリア形成支援 ③労働課題の棚卸 |
| 11. 令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 白梅学園創立 80 周年記念事業 | ①白梅学園創立 80 周年記念事業について、記念誌 (学園史 (補遺版)) の編纂、寄付金 (目標金額 2 億円) の募集、その他事業を学園全体で進める。新棟関連工事が完了後、記念式典を実施する。 ②建学の精神について、学園史編纂の中で改めて見つめなおし、全教職員で深め実践できる方法を模索する。新入職者への建学の精神の伝承等についても取り組む。 | ・ 白梅学園創立 80 周年記念事業募金の継続実施 ・ 2024 年度は卒業生や教職員 OG・OB、企業、地域の方々等に対して、本格的な募金活動を行う。 ・ 編纂史の内容・構成を固め、2025 年度に予算計上する。 |
| (2) 白梅学園グランドデザインの策定 | ①経営及び教学の各グランドデザイン策定分科会にて検討した教学・経営グランドデザインの統合・調整を図り、白梅学園グランドデザインを策定する。策定後は、ホームページ等にて学内のみならず広く公表する。 ②長期にわたって信頼を得られるとともに、学園全体で一体感を感じられる学園ブランドイメージを育て、その浸透を図る。継続的な発信の仕組みを作るとともに、定着を図る。 | ・ 5 つの策定分科会の開催。各分科会間では随時情報共有 ・ 5 つの策定分科会から策定会議へ中間報告 |

| 12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画 | | |
|---|--|--|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 大学・短期大学新棟の建築 (2024 年度工事着工、2026 年度供用開始予定) | ①大学・短期大学新棟については、学園の財政状況を踏まえつつ、施設のあり方について検討を重ね、2026 年度の供用開始に向けて着実に設計・工事を推進する。 ②既存棟の部分修繕、A・B 棟の解体、中庭の再整備を 2027 年度中に完了し、学生・生徒・園児にとって居心地の良い場所を確保する。合わせて高校・中学・幼稚園の教育環境整備も実施する。 | ・新棟及び既存棟の部分修繕、中庭について設計を完了。新棟建築に着工 ・明豊ファシリティワークスとの契約更新 |
| 13. 財政再建計画 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 学園の財政構造の特徴を踏まえ、支出構造の見直しを図る。 | ・教育活動資金収支差額の安定確保 (収支差額比率 10%超)、及び基本金組入前当年度収支差額の黒字基調維持により、安定的な財政基盤が確立する。 ・大短新棟建築以降においても、将来に向けた着実な施設設備積立が実現する。 ・恒常的な経費削減策を実施するとともに、効率的・有効的な経費配分を行い、収支バランスを確保する。 | ・1 年目：財務面からの対応策を検討し、白梅学園ランドデザイン策定会議等における検討に供する。 |
| (2) 学生納付金等収入の確保に向け、教学と連携して学生数等の増加策を検討する。 | ・学生納付金等収入の安定確保に向け、教学と連携した学生数等の増加策を実施し、収容定員充足を維持する。 | ・1 年目：課題の整理及び対応策を検討する。 |
| (3) 収入の多元化を図り、資産運用とともに、補助金、寄付金等獲得の取組を強化する。 | ・補助金について、可能性のある経常的な補助金の安定的な確保に加え、特別補助、加算額等を確実に獲得する。 ・寄付金などの外部資金について、多様な収入源を確保するための方策を実施する。 ・資産運用について、学園の資金を安全かつ有利に運用し、その差益により教育研究の発展に資する。 | ・1 年目：課題の整理及び対応策を検討する。 |
| (4) 各部門の自立的運営を図るため、各部門における財政上及びその他の必要な対応を検討・実施する。 | ・各部門ごとの自立的運営について、財政面におけるガイドラインや各種基準をまとめる。 ・基準に満たない場合において、必要な対策を検討し、実施する。 | ・1 年目：自立的運営に関してガイドライン及び各種基準の制定。 |

| | | |
|---------------------------------------|--|--|
| (5) 財政状況の推移に応じて、部門、組織の見直しを行う基準等を検討する。 | <ul style="list-style-type: none"> 各部門の財政状況の推移に応じ、部門・組織の見直しを行うための各種基準をまとめる。 収容定員未充足にともなう学園財政への影響に応じて、各部門や組織のあり方等について検討を行い、必要な対策を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> 1年目：各種基準の検討と制定 |
| 14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 私立学校法改正も踏まえたガバナンス改善・強化 | <ul style="list-style-type: none"> ①2025 年度施行予定の改正私学法の趣旨である「執行と監視・監督の役割の明確化・分離」「建設的な協働と相互けん制」への対応として寄附行為を改定し、理事・理事会、監事及び評議員・評議員会の権限分配を整理する。 ②改正私学法、及び関連の法令に基づき内部統制システムを整備する。 ③「白梅学園大学・白梅学園短期大学ガバナンス・コード」については、毎年度順守状況を公開するとともに、改正私学法の内容も踏まえて、3 か年ごとに内容を見直す。 | <ul style="list-style-type: none"> 改正私学法への対応として、役員・評議員の任期延長を含む寄附行為の改定を行う。 改正私学法の規定に基づき内部統制システム整備のために必要な体制整備を行う。 |
| 15. 管理運営（施設改修・更新・労務他） | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 既存校舎の長寿命化のための維持管理及び建て替え計画 | <ul style="list-style-type: none"> ①既存建物の長寿命化のため、修繕計画を見直す。 ②建て替え時期の見直しやコンパクト化など、既存建物の建て替え計画の見直しを行う。 ③インフラ設備の更新計画を立案する。 ④上記計画に基づき、修繕及び施設更新を実施する。 | <ul style="list-style-type: none"> ①修繕計画を見直し ②既存建物の建て替え計画を見直し ③インフラ設備の更新計画立案。 |
| 16. 情報化教育/ICT | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 既存ネットワークインフラ/サーバリプレイス | <ul style="list-style-type: none"> 学園ネットワークインフラ高速化整備：学外接続回線及び棟間接続回線の通信速度 10G 実現、末端端末レベルでのギガビット通信実現を目指す。 | <ul style="list-style-type: none"> ネットワーク整備フェーズ 1 の有線 LAN 環境の再整備及びサーバ環境再整備 |
| (2) 統合認証システム整備 グループウェア・ワークフロー等整備 | <ul style="list-style-type: none"> 学園全体の DX 化を段階的に進め、教職員の利便性向上と円滑な学園業務の遂行・情報共有を目的にグループウェアとワークフローシステムの整備を進め、教職員の利用用途拡大を図る。合わせて各種サービスのセキュリティ強化を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 2024 年 4 月より統合認証システムの利用開始予定 ログインアカウント統合可能なサービスを一元化（対象：教職員、大短学生→学生用ライセンス追加） コラボフロー新規申請書種類追加 |

(学園・法人事務局)

| | | |
|---|---|--|
| <p>(3)教職員端末リプレイス</p> | <p>・多様化する学園業務に対応するため学園貸与端末のノート型パソコンへのリプレイスを進め、学園内外問わず業務を行うことができるよう整備を進める。</p> | <p>・高校、清修、幼稚園教員の端末入替を2024年度内に完了する。</p> |
| <p>(4)新棟・既存棟ラーニングコモンズ他 ICT 環境整備、大短講義室 AV 環境整備</p> | <p>・大短新棟竣工を踏まえた各種コモンズ等の学生利用スペースの ICT 利用環境整備、ならびに教員の ICT 関連機器の共同利用環境を整備することで、教育研究への活用機材を充実させかつ合理化コスト削減を図る。</p> | <p>・大短学生利用教室の一部で IC カード学生証によるモビリティプリント等の実証実験開始</p> |

2. 白梅学園大学／大学院／短期大学

【部門長方針及び重点取組】

これからの時代を生きる学生たちの「変革をもたらすエージェンシー」(OECD)を本学として明確化、共有化し、カリキュラムや教育活動における実現を目指すとともに、学修者本位の教育の実質化を図ることが中期的な目標であるⁱ。高等教育を取り巻く内外の情勢は、18歳人口の減少もあって厳しさを増しているが、そうした逆境を、本学の強みを活かす好機と位置づけ直し、本学が培ってきた子ども学を、教育学における知のイノベーションを先導するものとして展開していく。

(1) 教育活動の推進—学修成果の可視化とエージェンシーの実現

スタディスキルの共通テキストを作成して、初年次教育からの積み重ねの道筋を共有化する。本学における学修成果指標（アセスメント・ポリシー）に基づき、学修成果の獲得状況データを根拠として、課題を確認・改善することを通じ、学修成果を可視化する。その際、学生自身が自己の学修についての見通しを持ち、実践し、振り返ることにより、学修者本位の教育の実現を具体的に運用し、学生が市民性と専門性を獲得し社会を変革するエージェンシーを発揮できるよう促す。

(2) 研究活動の推進—知の拠点としての研究の活性化とグローバルな展開

子ども学をめぐる新しいパラダイムの展開を積極的に主導するために、子ども学研究所の事業（研究調査・地域連携・成果発信）を充実・発展させる。また、学会等における研究成果の発信のさらなる活性化を目指し、科研費等の外部資金への申請を支援する。

子ども学アーカイブス（古田家蔵書プロジェクトほか）など知の集積拠点事業については、ホームページにおけるサイトの作成を活用した学内外にむけての発信を目指す。

地域連携では、子育て広場・小平地域連携・西ネットをはじめとするこれまでのつながりを継続・発展させるとともに、小平市・国立市・東村山市などの周辺自治体や教育委員会などの行政との連携・事業協力に貢献する。さらにそれらを、従来の家族主義を超える子育ての公共的共有空間＝コモンズの構想へつなげ、研究の国際展開を通じて、世界の自治体などとの連携にまで広げ、本学を子どもの教育に関わるグローバルなネットワークのハブにしていく端緒を築く。

(3) 学生支援の推進—社会の変革に参加する市民性の涵養

学生生活支援については、学生課、健康生活支援センター（健康支援室、学生相談室、学生生活支援室）、学科（教員）の三者の役割を明確にしながら三位一体の組織的、包括的な学生支援体制の組織的な体制強化を目指す。正課外の活動については、学生の市民性やエージェンシーの発揮とキャリア啓発に連動した地域ボランティアの参加増を目指す。

ⁱ エージェンシーは、OECDによる『ラーニング・コンパス（学びの羅針盤）2030』の中心概念で、2023年度の所信でも触れられた変革を生み出すコンピテンシーの発現形態であり、社会変革を促す行為を示すものである。

(4) 学園広報の推進と学生募集活動の強化—時代の需要に合わせた発信力のある広報ツールの活用

リニューアルしたホームページでは、学生及び教職員の地域貢献、教育・研究活動の発信などを中心に充実化を図る。また、本学の魅力、保育・幼児教育学及び関連する職業の魅力を伝えるオープンキャンパスイベントの展開を強化する。そうした取り組みに際しては、InstagramやYouTube等SNSの積極的に活用し、発信力のある広報ツールとしての活用と更新に取り組む。また、学生や卒業生の広報活動への参加を促進する。

(白梅学園大学・短期大学 学長 高田 文子)
(白梅学園大学・短期大学 学長予定 小玉 重夫)

【主要な事業計画】

2-1. 白梅学園大学／大学院

| 1. 教育活動の推進 | | |
|--------------------------------|--|--|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 新学科体制での目的遂行 | <ul style="list-style-type: none"> ・学位プログラムごとに一貫性のある学生指導ができています。 ・高度化専門科目が着実に履修され、学生の学びが深まっている。 ・教職志向者のキャリア教育を適切に行っている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学・大学院における研究倫理教育の実施のための共通テキストを作成し、学部全体において共通的な1年次よりアカデミックスキルの獲得による教育の質向上を目指す。 |
| (2) 可視化した学修成果を用いた教育の質向上サイクルの展開 | <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを活用した効果測定ができています。 ・学科でまとめたリフレクションシートにより、教育活動の振り返り、改善方策の実施を記録できている。 ・共通テキストの導入が教育の質向上につながっている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントポリシーは策定した。アセスメントポリシーに則したIRデータの収集及び分析結果を学科及び各部署へのフィードバックを行う。3つのポリシーを起点とした内部質保証体制、教育環境についての検証を行う。 |
| 2. 研究活動の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 成果発信の強化・充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・要件が改善された個人研究費が有効に使われている。 ・学内刊行物への投稿が活発に行われている。 ・学内助成が積極的に活用されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度学科長を通じ子ども学研究所のみならず、諸活動の大学においてホームページ、SNS発信の情報提供を依頼しており、今後も継続する。 ・科研費等の外部資金へ研究者の申請の動機付け、きっかけづくりとなる公募申請説明会の実施や、研究計画作成段階における個別具体的なアドバイス提供については有効な研究支援、推進となるため継続して行う。 |
| (2) 子ども学アーカイブの構築と大学年史の編纂準備 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学、短大年史資料の収集、整理、編纂準備が進んでいる。 ・古田家寄贈書、小松隆二氏寄贈書が整理され、公開されている。 ・子ども学アーカイブの構築が進んでいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・古田家寄贈書のコレクションの一部公開 ・大学・短期大学の歴史資料の収集、整理を進める。 |
| 3. 学生・生徒・園児支援の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 組織的、包括的な学生支援体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> ・キャンパスソーシャルワーカーの雇用が常態化し、学生生活支援室が有効に機能している。 ・学生の居場所空間に、新棟、既存棟あわせて400席以上確保できている。 ・トイレの洋式便器率が80%を超えている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学生課を総合窓口として、健康、心理、生活相談窓口が有効に機能していることから、体制を継続する。 ・フードパントリーの継続開催 ・予算の都合上、2024年度の洋式化は実施しない。 |

| | | |
|--|---|---|
| (2)多様な体験活動を通じたキャリア啓発活動の推進 | ・地域連携ボランティアへの参加が、学生のキャリア啓発に寄与している。 | ・地域のみならず、産学連携を含め地域での学生の活動支援を行う。 ・新カリキュラム後期科目でのフィールドワークの充実 |
| 4. 学生・生徒・園児の確保 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1)本学のブランド力や学問の魅力を伝える募集活動 | ・本学の魅力が受験生・保護者に伝わり、18歳人口の増減に影響を受けず入学定員100%以上の入学者数を確保している。 ・学部の収容定員充足に向けては3年次編入学制度が活用されている。 | ・オープンキャンパスを通じ、本学及び子ども学の魅力を受験生・保護者、高校教諭等に伝え、参加者の出願率を上げる。 ・総合型選抜及び学校推薦型選抜の入学者志願者で入学定員充足を目指す。 ・高校訪問を400回実施 |
| (2)高等学校新学習指導要領、アドミッションポリシーに沿った入学者選抜の実施 | ・高等学校新学習指導要領に対応した入試への移行を円滑に行い、公平性・妥当性を有した選抜を行っている。 ・アドミッションポリシーを理解した入学志願者を安定的に確保している。 | ・新学習指導要領に対応した新たな科目名等での入試を実施 ・アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜を実施 ・アドミッションポリシーに沿った入学者選抜が妥当性をもって実施されているかについて検証を行う。 |
| 5. 学園広報の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1)大学における広報・情報発信業務の確立 | ・大学としての広報・情報発信を積極的に行い、白梅学園大学・白梅学園短期大学の存在を広める。 | ・閲覧者視点のホームページデザインを目指し必要に応じてリニューアルを行う。お知らせ・告知だけでなく、大学・短大の活動報告を積極的に記事にする。年間20本の掲載を目標とする。 |
| (2)ターゲットを意識した発信の工夫 | | |
| 6. 国際交流の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1)国際交流活性化の具体的な支援策検討 | ・大学の諸活動、及び教員の研究活動について、英文での情報発信を強化する。また、教員の国際交流の活性化を図るとともに、学生の国際化意識を高める。 | ・大学ホームページの英文発信を増やす。 ・教員の国際交流及び海外・国際学会等の参加状況に応じた支援を検討する。現在海外の旅費の高騰に伴い検討を要している。 |
| (2)留学生の受け入れについて将来的方針の検討 | ・18歳人口の減少による入学志願者減少への対策と学生の国際化意識を高める留学生受け入れの両面から検討したうえで、本学としての将来的な方針が決定している。 | ・今までの状況（留学生数、入試問い合わせ件数等）を再調査し、本学の状況に即した留学生受け入れの方針と体制について、将来的な方針について論議する。 |

| 7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進 | | |
|--------------------------------|--|---|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 地域のニーズに応える「特定課題活動」の継続 | <ul style="list-style-type: none"> ・特定課題活動が継続して実施されている。 ・地域課題解決型プロジェクトの新規案件の提案があり、積極的に取り組まれている。 ・社会の要請にこたえる公開講座、研修講座が開催されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て広場や小平西地区ネットワークなどの活動の継続 |
| (2) 「地域課題解決型プロジェクト」による地域のシーズ発見 | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題解決型プロジェクトの助成採択 ・小平市、国立市の連携強化の継続 ・URA 導入の検討 |
| (3) 講座開催による社会貢献 | | <ul style="list-style-type: none"> ・保育士キャリアアップ講座、公開講座、市連携講座及び受託講座を実施する。 |
| 8. 卒業生との連携等の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 卒業生を対象としたリカレント教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・母校への愛着、帰属意識をより高め、卒業後も応援し続けてもらえると同時に頼られる大学・短期大学を目指す。また、リカレント教育（現職者教育）を通じた卒業生との交流の場を積極的に設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育士キャリアアップ研修の継続実施 ・小平市地域の保育園との連携の継続 ・同窓会支部会等への教員派遣と懇談会の参加促進 ・卒業生アンケートの継続実施。2 か年分の分析及び学科等へのフィードバック |
| 10. 建学の精神の高揚 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 建学の精神を継承する教職員研修の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学・短期大学の歴史を伝える機会を設け、先人たちの志と建学の知的心性を知り、ヒューマンイズムの精神の理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年史編纂室によってリスト化された資料を紹介し、大学・短期大学の今までの教育研究活動を共有する。 |
| (2) 建学の精神の継承 | <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神の継承と社会の変化に応じた変革 | <ul style="list-style-type: none"> ・SGD 策定時に建学の精神について触れる |
| 11. 令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 中期計画の履行 | <ul style="list-style-type: none"> ・学園史編纂を通して、特に大学開学以降の歩みを整理する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新学科の適正な履行 ・SGD 策定の検討 |
| (2) 大学開学以降の歩みの整理 | | <ul style="list-style-type: none"> ・年史編纂室による、資料のリスト化を進める。 |

| 12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画 | | |
|-------------------------------|--|--|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 基本構想策定と基本計画の答申 | ・大学短大新棟について、2024 年工事開始、2026 年供用開始に向けて、建築委員会で検討を進める。 | ・常勤理事会から大学・短大へ検討を依頼された事項について対応する。 |
| (2) 新学科設置に続く、新たなプランの検討 | ・白梅学園ランドデザイン（SGD）と連動し、2026 年度までに新たなプランが具現化されている。 | ・SGD 検討 ・次期改組またはカリキュラムについての検討開始 |
| 13. 財政再建計画 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 広報戦略の策定効果検証 | ・費用対効果を検証した予算配分システムが実行されている。 | ・費用対効果の高い広報活動を展開する。 |
| 14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 第三者評価を通じた、より適切なガバナンス体制の構築 | ・透明性の高い執行体制が築かれている。 | ・第三者評価受審 |
| (2) リスク管理のため、危機管理マニュアルの整備 | ・危機管理マニュアルが策定されている。 | ・各種規程、マニュアルの策定状況の確認及び更新 |
| 15. 管理運営（施設改修・更新・労務他） | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 学生の居心地のよい空間づくりの促進 | ・学生の居場所空間に、新棟、既存棟あわせて 400 席以上確保できている。 ・トイレの洋式便器率が 80%を超えている。 | ・トイレの洋式化は、予算上 2024 年度は行わない。 ・新棟建築までは最低限の改修、設備更新とする。 |
| 16. 情報化教育/ICT | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 学習支援システムの活用状況検証 | ・学習支援システム（ラーニングマネジメントシステム）の活用と合わせ、講義室の AV 設備環境の統一化を図ることで、全ての授業が ICT を活用した授業展開ができるようにし、ポスト・コロナ時代をも見据えた環境整備を進める。 | ・学習支援システム（ラーニングマネジメントシステム）の活用は定着している。学習支援システム（ラーニングマネジメントシステム：LMS）の活用状況を検証し、今期中期計画中に実現すべきカスタマイズ等を洗い出す。 |

2-2. 短期大学

| 1. 教育活動の推進 | | |
|---|--|--|
| 施策名 | 施策名 | 施策名 |
| (1) 新カリキュラムの実装 | <ul style="list-style-type: none"> 入学時からのきめ細かいゼミ指導ができています。 | <ul style="list-style-type: none"> 1年前期のゼミ実施による、細やかな初年次教育の実施 |
| (2) 短期大学独自の学修カルテを用いた学修成果の可視化 | <ul style="list-style-type: none"> 学修成果を可視化し、教育活動の振り返り、改善方策の実施に活かしている。 共通テキストの導入が教育の質向上につながっている。 リフレクションシートにより、教育活動の振り返り、改善方策の実施を記録できている。 | <ul style="list-style-type: none"> 2024年度入学生より全科目でのルーブリック評価の実施 研究倫理教育の実施のための共通テキストを作成し、共通的な1アカデミックスキルの獲得による教育の質向上を目指す。 ルーブリック評価を用いた多面的な評価の活用と自己評価とフィードバックの実施 |
| 2. 研究活動の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 研究活動の全体活性化と倫理向上（適切なエフォートと評価、学内刊行物の内容充実） | <ul style="list-style-type: none"> 要件が改善された個人研究費が有効に使われている。 学内刊行物への投稿が活発に行われている。 学内助成が積極的に活用されている。 | <ul style="list-style-type: none"> 2023年度学科長を通じ子ども学研究所のみならず、諸活動の大学においてホームページ、SNS発信の情報提供を依頼しており、今後も継続する。 科研費等の外部資金へ研究者の申請の動機付け、きっかけづくりとなる公募申請説明会の実施や、研究計画作成段階における個別具体的なアドバイス提供については有効な研究支援、推進となるため継続して行う。 |
| 3. 学生・生徒・園児支援の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 組織的、包括的な学生支援体制の構築 | <ul style="list-style-type: none"> キャンパスソーシャルワーカーの雇用が常態化し、学生生活支援室が有効に機能している。 学生の居場所空間に、新棟、既存棟あわせて400席以上確保できている。 トイレの洋式便器率が80%を超えている。 | <ul style="list-style-type: none"> 学生課を総合窓口として、健康、心理、生活相談窓口が有効に機能していることから、体制を継続する。 フードパントリーの継続開催 予算の都合上、2024年度の洋式化は実施しない。 |
| (2) 多様な体験活動を通じたキャリア啓発活動の推進 | <ul style="list-style-type: none"> 地域連携ボランティアへの参加が、学生のキャリア啓発に寄与している。 | <ul style="list-style-type: none"> 地域のみならず、産学連携を含め地域での学生の活動支援を行う。 新カリキュラム後期科目でのフィールドワークの充実 |

| 4. 学生・生徒・園児の確保 | | |
|---|--|---|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 本学のブランド力や学問の魅力を伝える募集活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・本学の魅力が受験生・保護者に伝わり、18歳人口の増減に影響を受けず入学定員100%以上の入学者数を確保している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパスを通じ、本学及び保育・幼児教育学の魅力を受験生・保護者、高校教諭等に伝え、参加者の出願率を上げる。 ・総合型選抜及び学校推薦型選抜の入学者志願者で入学定員充足を目指す。 ・高校訪問を400回実施 ・日本私立短期大学協会（広報委員）の中心的な役割を担う。 |
| (2) 高等学校新学習指導要領、アドミッションポリシーに沿った入学者選抜の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校新学習指導要領に対応した入試への移行を円滑に行い、公平性・妥当性を有した選抜を行っている。 ・アドミッションポリシーを理解した入学志願者を安定的に確保している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に対応した新たな科目名等での入試を実施 ・アドミッションポリシーを踏まえた入学者選抜を実施 ・アドミッションポリシーに沿った入学者選抜が妥当性をもって実施されているかについて検証を行う。 |
| 5. 学園広報の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 大学における広報・情報発信業務の確立 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学としての広報・情報発信を積極的に行い、白梅学園大学・白梅学園短期大学の存在を広める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・閲覧者視点のホームページデザインを目指し必要に応じてリニューアルを行う。お知らせ・告知だけでなく、大学・短大の活動報告を積極的に記事にする。年間20本の掲載を目標とする。 |
| (2) ターゲットを意識した発信の工夫 | | |
| 6. 国際交流の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 国際交流活性化の具体的な支援策検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学の諸活動、及び教員の研究活動について、英文での情報発信を強化する。また、教員の国際交流の活性化を図るとともに、学生の国際化意識を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・白梅学園グランドデザイン（SGD）策定委員会の分科会において、話題にし、長期的な見通しも含めて検討する。 |
| (2) 留学生の受け入れについて将来的方針の検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・18歳人口の減少による入学志願者減少への対策と学生の国際化意識を高める留学生受け入れの両面から検討したうえで、本学としての将来的な方針が決定している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今までの状況（留学生数、入試問い合わせ件数等）を再調査し、本学の状況に即した留学生受け入れの方針と体制について、将来的な方針について論議する。 |

| 7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進 | | |
|---------------------------------|--|---|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 地域のニーズに応える「特定課題活動」の継続 | <ul style="list-style-type: none"> ・特定課題活動が継続して実施されている。 ・地域課題解決型プロジェクトの新規案件の提案があり、積極的に取り組まれている。 ・社会の要請にこたえる公開講座、研修講座が開催されている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て広場や小平西地区ネットワークなどの活動の継続 |
| (2) 「地域課題解決型プロジェクト」による地域のシーズ発見 | | <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題解決型プロジェクトの助成採択 ・小平市、国立市の連携強化の継続 ・URA 導入の検討 |
| (3) 講座開催による社会貢献 | | <ul style="list-style-type: none"> ・保育士キャリアアップ講座、公開講座、市連携講座及び受託講座を実施する。 |
| 8. 卒業生との連携等の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 卒業生を対象としたリカレント教育 | <ul style="list-style-type: none"> ・母校への愛着、帰属意識をより高め、卒業後も応援し続けてもらえると同時に頼られる大学・短期大学を目指す。また、リカレント教育（現職者教育）を通じた卒業生との交流の場を積極的に設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> ・保育士キャリアアップ研修の継続実施 ・小平市地域の保育園との連携の継続 ・同窓会支部会等への教員派遣と懇談会の参加促進 ・卒業生アンケートの継続実施。2 か年分の分析及び学科等へのフィードバック |
| 10. 建学の精神の高揚 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 建学の精神を継承する教職員研修の実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学・短期大学の歴史を伝える機会を設け、先人たちの志と建学の知的心性を知り、ヒューマンイズムの精神の理解を深める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・年史編纂室によってリスト化された資料を紹介し、大学・短期大学の今までの教育研究活動を共有する。 |
| (2) 建学の精神の継承 | <ul style="list-style-type: none"> ・建学の精神の継承と社会の変化に応じた変革 | <ul style="list-style-type: none"> ・SGD 策定時に建学の精神について触れる。 |
| 11. 令和充実5ヵ年計画・80周年記念事業 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 将来構想策定委員会答申に基づく中期計画策定に向けた検討 | <ul style="list-style-type: none"> ・大学としての将来構想を策定し、中長期的な教学プランに基づいて大学運営を進める。また、白梅学園創立80周年記念事業の一環である学園史編纂を通して、特に大学開学以降の歩みを整理する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・第2期中期実行計画に基づく新カリキュラムの適正な履行 SGD 策定の検討 |
| (2) 大学開学以降の歩みの整理 | | <ul style="list-style-type: none"> ・年史編纂室による、資料のリスト化を進める。 |

| 12. 大学短大新棟・施設中長期整備計画 | | |
|-----------------------------|--|--|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 基本構想策定と基本計画の答申 | ・大学短大新棟について、2025 年工事開始、2027 年供用開始に向けて、建築委員会で検討を進める。 | ・常勤理事会から大学・短大へ検討を依頼された事項について対応する。 |
| (2) 短大将来像の検討と教員業績作成促進 | ・白梅学園グランドデザイン（SGD）と連動し、短大将来像を示すロードマップが策定されている。 | ・SGD 検討 ・ロードマップの検討 |
| 13. 財政再建計画 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 大学・短期大学全体の適切な定員設定での改組 | ・外部募集環境を踏まえ、適切な定員管理による収入の安定化に寄与している。 | ・短大の募集状況を学内関係者に共有する。 |
| 14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) リスク管理のため、危機管理マニュアルの整備 | ・危機管理マニュアルが策定されている。 | ・各種規程、マニュアルの策定状況の確認及び更新 |
| 15. 管理運営（施設改修・更新・労務他） | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 建物設備整備の更新要請 | ・建物設備の定期的な更新を実施し、学生の教育環境として、時代に即した快適な施設設備であり続けられるよう、法人事務局と協働して進める。 | ・トイレの洋式化は、予算上 2024 年度は行わない。 ・新棟建築までは最低限の改修、設備更新とする。 |
| 16. 情報化教育/ICT | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画（年次計画） |
| (1) 学習支援システムの活用状況検証 | ・学習支援システム（ラーニングマネジメントシステム）の活用と合わせ、講義室の AV 設備環境の統一化を図ることで、全ての授業が ICT を活用した授業展開ができるようにし、ポスト・コロナ時代をも見据えた環境整備を進める。 | ・学習支援システム（ラーニングマネジメントシステム）の活用は定着している。学習支援システム（ラーニングマネジメントシステム：LMS）の活用状況を検証し、今期中期計画中に実現すべきカスタマイズ等を洗い出す。 |

3. 白梅学園高等学校

【部門長方針及び重点取組】

生徒を中心に据え、教職員・保護者・卒業生・関係諸機関が連携して、生徒の学力と人間力の伸長を成し遂げる。教職員が生徒と向き合い、寄り添いつつ、「教職員の面倒見の良さ」と「生徒の自立」とのバランスを適切にとりながら、卒業時までには自走できる生徒を育成する。

(1) 質の高い授業づくり

各授業担当者が、生徒間の対話と表現のある授業を実践していく。(非常勤講師も含む) そうした授業場面を通して、生徒たちが新たな気づきを得たり、自らの考えを深めたりすることにより、思考力・判断力・表現力を高めていく。

(2) 生徒が達成感・成就感を味わえる特別活動

生徒の実態、社会情勢を踏まえながら、体育祭・合唱コンクール・白梅祭の計画立案をする。生徒たちが三重大行事を楽しみ、帰属意識を高め、達成感・成就感を得られるように各実行委員会を指導・支援していく。

また、学習と部活動との両立を図れるよう、自学習の働きかけを継続指導していく。

(3) 生徒の希望進路の実現

特別選抜コース文理系及び選抜コースの1年生を育て、特別選抜コース国公立系へ上げていくことを通して、国公立系在籍者を安定的に確保する。

特別選抜コース会議及び教員会・校内研修等において、各学期で模試の分析と共有を行う。また、特別選抜コースにおける、より効果的・組織的な教科指導の確立へ向けて教科内で指導方法等について検討を始める。

(4) 入学者数の安定確保

学校 Web サイトの適切な更新、SNS による情報発信、中学校訪問、夏季休業日までの塾訪問(国公立系生徒の出身塾)、体験入学、学校見学会、学校説明会、個別相談、入試相談等を通して、280 人の入学者数を確保する。

(白梅学園高等学校 校長 武内 彰)

【主要な事業計画】

(白梅学園高等学校)

| 1. 教育活動の推進 | | |
|-------------------------|--|--|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 質の高い授業づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒間の対話と表現のある授業が、日常的に実践されている。 ・生徒による授業評価アンケートにおける設問「授業中に対話的な学びがあるか」において、5段階評価で4.5を達成する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に授業内で「生徒間の対話と表現」を実施する教員の割合を増やしていく。【専任教諭・常勤講師・非常勤講師全体で70%を目指す】 ・日常業務において、適宜情報交換・情報共有をしていく。 ・授業研究週間、ピックアップ授業、校内研修等をとおして、実践共有をしていく。 |
| 2. 学生・生徒・園児支援の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 生徒が達成感・成就感を味わえる特別活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・生徒たちが体育祭・合唱コンクール・白梅祭を通して達成感・成就感を味わうことができる。 ・各実行委員会生徒の主体性を活かした計画・実施とする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・体育祭、合唱コンクール、白梅祭を開催する。 ・学習とのバランス、各行事間の準備のバランスをとりながら、一人一人の生徒が役割を担い、協働していけるように支援する。 ・実行委員会の生徒に任せる部分と担当教員主導で行うところとのメリハリをつけた企画・実施とする。 |
| (2) 生徒の希望進路の実現 | <ul style="list-style-type: none"> ・現役で国公立15名、早慶上理20名、GMARCH35名の合格者を出す。 ・特別選抜コース会議において模試の分析を行い、教員会または校内研修等において共有し、教科指導へ反映させる。 ・各教科内で効果的・組織的な特別選抜コースの教科指導を確立させる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・入学時に国公立系の生徒を10名以上確保することを目指す。それがかなわないときは、1年間の教科指導を通して、国公立系に上がる生徒を育成して確保する。 ・模試の分析と共有(年3回) |
| 3. 学生・生徒・園児の確保 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 入学者数の安定確保 | <ul style="list-style-type: none"> ・募集人員の確保(当面一学年280人の人員確保を目指す) ・特別選抜コースの入学生を確保するために、塾訪問をルーティン化する。(国公立系生徒の出身塾) | <ul style="list-style-type: none"> ・学校Webサイトでは、1週間に複数回の更新を目指す。 ・SNSでは年間の見通しをもって、タイムリーに情報発信していく。 ・国公立系生徒の出身塾訪問は夏季休業日までには終わる。 |

4. 白梅学園清修中学校・中高一貫部

【部門長方針及び重点取組】

昨年度までの第1期中期実行計画の5年間は、本校の最重要課題である財政の健全化にむけて、生徒数確保のための募集対策とともに、財政支出の削減に取り組んできた。

第2期中期実行計画では、本校が持続的に発展するためには、本校の特色ある教育活動を充実させ、教育の成果を高めることであると考えている。そのために本年度は、今後特色としてブランディングしていきたい次の3つの項目、(1) 女子教育の推進、(2) 英語教育の充実、(3) ICT機器の活用、を重点取組として設定した。

(1) 女子教育の推進（生徒に目標をもたせ、主体性・自主性を育む）

生徒の主体性や個性を大切にして、一人一人の生徒のよさを活かした活躍の場を、学校生活や学校行事の中に意図的に取り入れていく。また、異学年活動を取り入れ、身近なところに、素敵な先輩がいることに気づき、目標として生活したり学んだりしていく。「あこがれは、いつか自分をそこに押し上げてくれる」という女子校の魅力を生徒たちにもたせたい。

(2) 英語教育の充実（「英語を使う、使える環境」を実現する）

日常の授業の中で、英語に慣れ親しむためにリスニング、スピーキングを重視し、対話的な授業を大切に「英語が好きになる」「英語を使ってみたくなる」機会を意図的に計画する。英語によるコミュニケーションに興味や関心をもたせ、中高一貫校だからこそできる、6年間を通して英語のスキルを高める計画を立案していく。

(3) ICT機器の活用（生徒の主体的な学びに活用する）

生徒の学習への興味や関心、意欲を喚起し、主体的な学びに活かすために、タブレット端末や電子黒板、ZOOMなどを活用する。日常的な学びの中で、一人一台のタブレット端末に記録・保存した自らの学びの成果を振り返るなど、主体的な学びの道具として活用していく。

財政の健全化は今後も経営上の重要課題であり、生徒数確保のための募集対策は重点施策である。学校の特色について公立中学校や私立の競合校との差別化を明確にして、「6年間一貫女子教育」「英語教育」「ICTの活用」を学校の魅力として、その特色と成果を『見える化』する広報に取り組んでいく。

（白梅学園清修中学校・中高一貫部 校長 山田 裕）
（白梅学園清修中学校・中高一貫部 校長予定 南 和男）

【主要な事業計画】

(白梅学園清修中等学校・中高一貫部)

| 1. 教育活動の推進 | | |
|---------------------|---|--|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 女子教育の充実 | ・女子校の社会的ニーズに応え、自ら考え判断し行動できる女性の育成を目指す。 | ・学校行事等のグループ活動や異学年縦割りの活動の中に、一人一人の生徒のよさを活かした役割を意図的に取り入れ、一人一人の生徒が輝く機会を設定する。 |
| (2) 英語教育の推進 | ・英語によるコミュニケーション能力の育成を目指す。 | ・英語に関わる学校行事と英語科のカリキュラムを連動させ、英語スキルを向上させる実践の場として成果を上げる。 ・中学1、2年生の授業を充実させるために、少人数指導による授業を定着させる。 |
| (3) ICT 活用 | ・ICT を活用する能力を高め、主体的な学びの基盤となる能力の育成を目指す。 | ・Classi を活用し、生徒の主体的な学びの道具として活用する。 ・生徒の学習への興味や関心、意欲を喚起するために、タブレット端末や電子黒板など ICT を最大限に活用する。 |
| 2. 研究活動の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 生徒の学力向上 | ・学力向上に向けた授業改善に組織的に取り組み、自らよりよい授業を目指す教員を育成する。 | ・年間3回以上、校内及び白梅学園高等学校の公開授業を参観し、参観の観点を3つ明確にして授業を分析する。 ・探究的で対話的な授業を工夫し、思考力、表現力の育成を図る。 ・中学1年生生徒へ学生ボランティアによるTTを実施し、基礎的・基本的な学習内容を確実に身に付けさせる。 |
| 3. 学生・生徒・園児支援の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 自己実現に向けた生徒指導の充実 | ・一人一人の生徒の教育的ニーズに応じて個別最適な学びを支援する。 | ・不登校傾向や集団不適應生徒の実態を共有し、適切な支援を行うために校内委員会をもつ。 |
| 4. 学生・生徒・園児の確保 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 募集対策の工夫 | ・安定的に入学者数を確保する。 | ・学校説明会で、生徒のよさ、女子校の魅力伝える工夫をする。 ・一人一人の教員が学校のよさを伝えるプレゼンテーション能力を高める。 |

| 6. 国際交流の推進 | | |
|-----------------------|-------------------------------|---|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1)外国人、留学生との交流 | ・外国人とも積極的にコミュニケーションを図ることができる。 | ・外国人とも積極的にコミュニケーションを図ることができる機会を設定する。 |
| 7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1)小平市との連携 | ・地域社会に貢献する学校を目指す。 | ・小平市中央公民館事業と連携を図る。 |
| 8. 卒業生との連携等の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1)同窓会との連携 | ・あこがれの先輩としての存在からキャリア教育に結び付ける。 | ・卒業生との連携を、進路説明会や学校説明会の講演でつないでいき、各卒業年時の卒業生との関係を維持強化していく。 |
| 9. 働き方・仕事の仕方の見直し | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1)学校運営組織の強化 | ・校務を組織的に取り組むため、責任者を明確にする。 | ・専任教員は、校務分掌の責任ある立場で務める。 |
| 10. 建学の精神の高揚 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1)建学の精神を時代のニーズで捉える。 | ・時代のニーズに応じた育てたい生徒の姿を明確にする。 | ・中長期の将来構想をまとめる清修グランドデザイン策定会議を組織する。 |
| 13. 財政再建計画 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1)学校運営経費のスリム化 | ・入学生徒の40名確保 ・学校運営経費のスリム化 | ・支出削減を維持、学園全体の削減率+5% |
| 16. 情報化教育/ICT | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1)今後のオンライン教育のあり方の検討 | ・タブレット端末を使った新しい授業の創造 | 1 教育活動の推進 (3) ICT活用 |

5. 白梅学園大学附属白梅幼稚園

【部門長方針及び重点取組】

白梅幼稚園は大学附属の幼稚園として大学・短期大学の教育・研究と連携・協力を図り、子ども自ら遊ぶ先進的な実践とその研究を行い、その成果を広く発信し、提案を行う。

2024年度は、先進的な保育実践や保育環境の最適化、カリキュラム開発を推進する。また、未就園児を対象とする保育や諸企画を充実させ、地域における本園の機能を明確化する。加えて、園史関係資料や教育・研究実績の取りまとめを進め、本園のブランディングを試行する。

(1) 先進的な幼児教育の実践と研究の推進

子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育の実践と研究を行う。

- ①「保育環境の最適化」として、保育者の保育構想のもと、室内外の保育環境を構築する。環境会議や園庭ワークショップなど保育者間の協働によって、相互に知見と技術を共有し高め合う。また、引き続き、安全で衛生的な保育室及び園環境の整備を進める。
- ②探究と協働を軸にした「カリキュラム開発」を推進する。年齢に応じたカリキュラムに加え、行事や異年齢活動「うめっこひろば」の実践など諸般の取組を含めて、子どもの経験を読み解く視点に基づくカリキュラムを策定する。
- ③「研究の推進と成果の公表」を進める。小平第一小学校と、幼小一体的なカリキュラムの研究開発を進め、第二年次の成果をとりまとめる。

(2) 大学・短期大学の教育・研究との連携・協力の強化

大学・短期大学に教育・研究の場を提供するとともに、学術研究の成果の還元を受けて、幼児教育の実践や研究を充実させるなど、大学附属園として先導的な役割を果たす。

(3) 白梅幼稚園の広報活動の充実

ホームページの刷新や広報誌等の充実、ネットワーク環境の積極的複合的活用を図り、本園の諸活動の広報を充実させる。ボランティアを導入し、きめ細やかで、保護者目線で信頼できる情報の提供を目指す。昨年度に引き続き、対面での広報にも注力する。

(4) 2歳児クラスの保育や未就園児対象企画の充実

2歳児クラスの開講期と保育内容を見直し、後期については入園後の保育との接続性の向上を図る。園庭開放やお話し会など未就園児対象企画の充実などを通して、地域の子育て支援に資するとともに、本園の保育について理解を促す。

(5) 本園のブランディングの検討と試行

子ども学研究所の助成研究における資料のアーカイブ化に協力し、その保存と活用を推進するとともに、本園の教育・研究・組織運営に関する実績の記録と取りまとめを進め、ブランディングに関する検討を行い、試行を進める。

(白梅学園大学附属白梅幼稚園 園長 本山 方子)

【主要な事業計画】

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

| 1. 教育活動の推進 | | |
|---------------------------|--|--|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 「子ども自ら遊ぶ」幼児教育の実践の構築 | ・保育環境に誘われ、「もの」「人」「こと」を相互に関連付け、子ども自ら遊びを立ち上げ、深める「子ども自ら遊ぶ」幼児教育を実践する。 | ①自由遊びを主とする子ども自ら遊ぶ保育を実施する。カリキュラム・マネジメントにより、日々の保育や行事等を振り返り、年齢に応じた保育を更新する。 |
| (2) 保育環境の最適化 | ・遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。 | ①保育者自らの保育の構想に応じて、保育室内のものの配置を見直し、可変的で衛生的な保育環境を構成する。 ②室内外に配置されたものの傷みや安全性等を点検し、必要に応じて修理や更新を行う。 ③環境会議を開催し、教員相互に環境構成を実地で学び合う。 ④園庭ワークショップを実施し、園庭や屋外の保育環境について最適化を図る。 |
| (3) 教育における大学・短大との連携・協力の強化 | ・大学・短大による子ども学の実践や、保育者養成教育に協力し、互恵的な学びの関係を築く。 | ①大学・短大の教育実習生を受け入れ、保育者養成教育に貢献する。 ②大学・短大の学科や施設等と連携・協力し、園児及び学生の諸活動の充実を図る。 ③大学・短大で開講する授業等に対し、参観の場の提供や、幼児教育実践や保育職に関する話題提供などを通して協力を行う。 ④保育環境整備や保育補助等について、高校生や大学生等のボランティア等を導入し、学生・生徒の保育経験の充実に貢献する。 |
| 2. 研究活動の推進 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 先進的な幼児教育の研究の推進 | ・子ども自ら遊び、探究と協働を深める幼児教育のカリキュラムを開発し、実施する。 ・文部科学省研究開発学校として、小平第一小学校とともに、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」を開発する。 ・公開保育研究会の開催や、研究報告の刊行を行い、研究成果を公表する。 | ①毎月、園内研究会や合同カリキュラム会議等を実施し、子どもの育ちと保育のありようについて協議し、実践研究やカリキュラム開発を推進する。 ②公開保育研究会の開催などを通して研究成果を公表したり、他園を参観したりして、他園の保育者等との交流を図る。 ③文部科学省研究開発学校として、幼小一体的なカリキュラム「生活ひろば」を年間通して、実践を試行する。 |

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

| | | |
|-------------------------------------|---|--|
| <p>(2) 研究における大学・短大との連携・協力の強化</p> | <p>・大学・短大の教員や学生に研究の場を提供し、学術研究の成果の還元を受けるとともに、本園の研究への支援を受けるなど、幼児教育に関する研究を相互に高めあう。</p> | <p>①大学・短大の研究・調査に協力し、その成果についてフィードバックを受ける。 ②幼稚園が推進する研究について、大学・短大の教員から指導・助言や援助を受けてさらなる充実と改善を図る。 ③大学と幼児教育懇談会を開催し、幼稚園の課題や、大学・短大の教育・研究の受け入れなどについて検討を行う。</p> |
| <p>3. 学生・生徒・園児支援の推進</p> | | |
| <p>施策名</p> | <p>中期計画の全体像</p> | <p>2024 事業計画 (年次計画)</p> |
| <p>(1) 園生活において支援を要する子どもの育ちの保障</p> | <p>—</p> | <p>①小平市等の巡回相談を活用し、支援を要する子どもの育ちに関して助言を受け、保育や子ども理解に活かす。 ②クラスの状況に応じて保育補助者を配置し保育の充実を図り、クラスの子どものたちの集団かつ個の育ちを促す。</p> |
| <p>(2) 預かり保育の充実</p> | <p>・預かり保育において、安定的な受け入れを行い、保育内容の充実を図る。</p> | <p>①預かり保育について、随時、環境の見直しと内容の工夫を行い、長期休業中を含め通年で実施する。 ②おやつについて、子どもに応じて過不足のないよう、準備する。 ③各種手続きについて、保護者が円滑に行えているか、点検し、改善を図る。</p> |
| <p>(3) 保護者の子育てを「エンカレッジ」する支援の実施</p> | <p>・保護者による各種活動の支援や相談機能の充実を図り、園児の健やかな成長を支える。</p> | <p>①保護者対象の講座を開催する。 ②梅の実会や保護者によるサークル活動、保育参加活動などの保護者活動を支援する。</p> |
| <p>(4) 各種支援における大学・短大との連携・協力の強化</p> | <p>・教員研修や保護者支援、発達・子育ての相談・支援等、よりよい教育を支える諸活動について、連携と協力を図る。</p> | <p>①大学の発達・教育相談室や専門領域の教員と連携して、子育てや発達の相談に対応する。</p> |
| <p>4. 学生・生徒・園児の確保</p> | | |
| <p>施策名</p> | <p>中期計画の全体像</p> | <p>2024 事業計画 (年次計画)</p> |
| <p>(1) 未就園児保育 (2 歳児クラス) の実質化と充実</p> | <p>・未就園児クラス『びよびよ』での保育を充実させ、保護者による本園の保育への理解を深化させ、入園後の円滑な生活の実現を図る。</p> | <p>①開講期を見直し、5 月～10 月を前期、11 月～3 月を後期とし、後期においては入園後の保育との接続を図る。 ②2 歳児クラスについて週 1 クラス (月曜～金曜の各曜日クラス) と週 2 クラス (月木クラス、火金クラス) を開室し、内容の充実を図る。 ③いずれの曜日も、自家用車による通園を可能とし、子育ての負担軽減に寄与すると共に、2 歳児クラス利用を促進する。 ④2 歳児クラスの保護者には、幼稚園主催の講座への参加を可能とするなど、子育て等に関する相談に対応する。</p> |

(白梅学園大学附属白梅幼稚園)

| | | |
|----------------------------------|---|---|
| <p>(2) 募集対策の強化</p> | <p>・園児募集の課題について、変化する諸状況や諸環境をふまえて明確化し、都度、対応を図る。 ・メディアの特性を活かして、募集広報を行う。</p> | <p>①入園説明会の構成を工夫し、参加者の十分な理解を促し、疑問に丁寧に応える。 ②入園説明会における資料提示を工夫し、SNSを活用して随時配信するなど、園への関心の継続やホームページの閲覧を誘う。 ③園庭開放やお話し会、あそぼう会等、未就園児対象の企画と連動して、広報の強化を図る。 ④園のパンフレットやチラシなどの紙媒体や、Webサイトの随時更新、SNSの随時配信、口コミなどを組み合わせて広報を行う。</p> |
| <p>5. 学園広報の推進</p> | | |
| <p>施策名</p> | <p>中期計画の全体像</p> | <p>2024 事業計画 (年次計画)</p> |
| <p>(1) ネットワーク環境の活用による広報活動の充実</p> | <p>—</p> | <p>①ホームページについて更新し、随時の情報配信によって園内外への広報を行う。 ②さくらシステムやSNS等を利用して、在園児や未就園児の保護者等に幼稚園の現況やイベント等についてお知らせを行う。</p> |
| <p>7. 生涯学習・社会貢献・地域連携等の推進</p> | | |
| <p>施策名</p> | <p>中期計画の全体像</p> | <p>2024 事業計画 (年次計画)</p> |
| <p>(1) 未就園児を対象とする各種企画の実施</p> | <p>・地域における未就園児の親子を対象に園庭開放や諸企画を開催し、子育て支援に資する。</p> | <p>①2歳児クラスを開室して、未就園児保育を実施する。 ②園庭開放やおはなし会、あそぼう会、体験入園などの未就園児対象の企画を実施する。</p> |
| <p>(2) 地域や近隣諸機関との交流の推進</p> | <p>・教育や研究、各種支援等において、自治体や諸施設、教育機関と連携・協力をを行う。</p> | <p>①小平第一小学校と幼小一体的なカリキュラムの研究開発を行うほか、地域や近隣の諸施設、諸機関と連携・協力をを行い、園児の活動を充実させ、健やかな生活の安定を図る。</p> |
| <p>8. 卒業生との連携等の推進</p> | | |
| <p>施策名</p> | <p>中期計画の全体像</p> | <p>2024 事業計画 (年次計画)</p> |
| <p>(1) 卒園生との交流</p> | <p>—</p> | <p>①同窓会を開催し、卒園生や保護者OBと交流を行い、園の課題を認識し、園の教育への支援を得る。 ②保育における特定の活動において、技術のある卒園生や保護者OBに協力をいただく。</p> |

| 9. 働き方・仕事の仕方の見直し | | |
|--|--|---|
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 業務の再編と相互連携 | ・各種研修や諸会議を通し、保育者相互の意見交流を活発化させ、学びあう園組織を構築する。 | ①園の業務の透明化を行い、それぞれの業務の相互理解を深め、教職員間の連携協力を推進する。 |
| 10. 建学の精神の高揚 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 園史や教育・研究実績、大学附属園としての機能をふまえたブランディング | ・園史関係資料の保存・管理や、アーカイブ化、それらの資料を活用した研究を推進する。 ・大学附属園としての実績を含め、教育・研究・組織運営に関する年報を作成する。 ・ブランディングに関する検討を行い、園の将来像を見定める。 | ①大学・短大の教員、子ども学研究所と連携し、園史関係資料の収集を進め、園内の保存資料の整理とアーカイブ化を進める。 ②年報を作成し、教育・研究・組織運営の実績を取りまとめる。 ③園のグランドデザインのなかで、ブランディングに関する検討を行う。 |
| 14. ガバナンス強化、意思決定の迅速化・透明性の徹底 | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 教員組織の機能強化 | ・各種研修や諸会議を通し、保育者相互の意見交流を活発化させ、学びあう園組織を構築する。 | ①園務分掌や担当業務を明確化するとともに、相互の連絡・報告を緊密に行い、互いの業務の理解を深め、意思決定の迅速化を図り、透明性を高める。 |
| 15. 管理運営 (施設改修・更新・労務他) | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) 各種施設の改修 | ・遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。 | ①安全面や公衆衛生面、幼児の生活の場としての最適化の観点から、設備や施設、備品について改修や更新を図る。 |
| 16. 情報化教育/ICT | | |
| 施策名 | 中期計画の全体像 | 2024 事業計画 (年次計画) |
| (1) ICT システムの十全な活用 | ・遊びを誘発し、かつ、安全で衛生的であるように、保育構想に基づき、室内外の保育環境の最適化を図る。 | ①さくらシステムについて、保護者との緊密な連絡や情報共有、諸活動の広報に活用する。 ②年中組、年長組にタブレットを配置し、保育場面において効果的な活用を図る。 |

[Ⅲ]2024 年度予算

1. 予算編成方針

2024 年度の予算編成にあたっては、以下の方針を立てて臨んだ。

- ① 当年度の収入の範囲で予算編成を行いマイナス予算は組まない。
- ② 財政再建策に基づき大短新棟のための建築資金を計画どおり積立てる。
- ③ 各部門の政策的に重視する項目を重点予算として編成する。

上記方針に基づき、予算の編成にあたったが、入学者数・入園者数の減少により当初の方針通りの編成を行うことができず、以下のとおりとなった。

- ① 2024 年度予算では学生数の減少に伴い、学納金収入が前年予算比 144 百万円減少した。資金収入の範囲で予算編成を行うことを念頭に、各部門前年度予算比 5%削減の予算編成を実施するなど学園全体で予算縮減を行ったものの、活動区分資金収支予算書における支払資金の増減額は△202 百万円となった。事業活動収支では、経常収支差額が△146 百万円、基本金組入前当年度収支差額が△85 百万円となった。予算編成方針では、マイナス予算は組まないこととしていたが、大短新棟のための建築資金を計画どおり積立てること及び情報システム課における ICT 整備の集中年度に該当すること等により、当年度に限定したうえでマイナスの予算編成を行わざるを得なかった。なお、2024 年度は予算執行段階において執行可否を改めて検討すること、学生等数の回復を早急に図っていくこと、財政構造見直しに向けた検討を更に進めることを確認している。
- ② 財政再建策に基づき、教職員の賞与 1.5 ヶ月削減等を実施し大短新棟のための建築資金 265 百万円の積立てを予算化している。積立資金は減価償却引当特定資産に 65 百万円、第 2 号基本金に 200 百万円を繰入れる。2019 年度からの財政再建策は概ね計画どおりに実施している。
- ③ 各部門の政策的に重視する項目について予算編成は行わなかった。

■大短新棟のための建築資金 年度末累計額（100 万円以下四捨五入）

| 年度 | 繰入額 | 取崩額 | 年度末 累計（予定）額 （第 2 号基本金含） | 備考 |
|-----------|--------------|-----------|----------------------------|---|
| 2017 年度決算 | 1 億円 | - | 1 億円 | 第 2 号基本金へ繰入 |
| 2018 年度決算 | 1 億円 | - | 2 億円 | 第 2 号基本金へ繰入 |
| 2019 年度決算 | 1,400 万円 | - | 2 億 1,400 万円 | 減価償却引当特定資産へ繰入 |
| 2020 年度決算 | 1 億 2,300 万円 | - | 3 億 3,700 万円 | 減価償却引当特定資産へ繰入 |
| 2021 年度決算 | 1 億 7,700 万円 | *2,800 万円 | 4 億 8,600 万円 | 減価償却引当特定資産へ繰入 減価償却引当特定資産 取崩 |
| 2022 年度決算 | 2 億 1,200 万円 | *1,700 万円 | 6 億 8,100 万円 | 減価償却引当特定資産及び 2 号 基本金へ繰入 減価償却引当特定資産 取崩 |
| 2023 年度予算 | 2 億 3,300 万円 | *1,500 万円 | 8 億 9,900 万円 | 減価償却引当特定資産及び 2 号 基本金へ繰入 減価償却引当特定資産 取崩 |
| 2024 年度予算 | 2 億 6,500 万円 | *7,300 万円 | 10 億 9,100 万円 | 減価償却引当特定資産及び 2 号 基本金へ繰入 減価償却引当特定資産 取崩 |

*大短新棟のための費用

■2024年度 施設設備・ICT 予算一覧（100万円以下四捨五入）

| 部門 | 施設設備・ICT（重点予算以外） | 金額 |
|-------------|--|-----------|
| 大学・短大 | F棟トイレ改修（300万円） | 600万円 |
| | 基幹系システムカスタマイズ（300万円） （授業支援システム・大短WEB出願システム） | |
| 白高 | 学園貸与ノートPCリプレイス（1,100万円） | 1,100万円 |
| 清修 | ガス空調機入替（リース）（400万円） | 1,000万円 |
| | 学園貸与ノートPCリプレイス（600万円） | |
| 白高・清修 共通 | 基幹系システムカスタマイズ（100万円） （入試システム・教務システム） | 100万円 |
| 幼稚園 | オーニング（100万円） | 700万円 |
| | コミュニティホールAV整備（400万円） 学園貸与ノートPCリプレイス（200万円） | |
| 学園共通 | K棟屋上防水工事（1,600万円） 防火設備改修等（600万円） | 1億600万円 |
| | 仮想サーバ基盤環境整備（4,500万円） 学園ネットワークの再構築（2,800万円） 統合認証基盤整備（800万円） 学園貸与ノートPC筐体保護等（100万円） グループウェア等整備（200万円） | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | 合計 | 1億4,000万円 |

減価償却特定資産を取崩して対応するものは、下表のとおり。

■2024年度 減価償却特定資産を取崩して対応するもの（100万円以下四捨五入）

| 内訳 | 施設設備・ICT | 金額 |
|------|---------------------------|---------|
| 大短新棟 | 大短新棟コンストラクション・マネジメント業務委託料 | 1,200万円 |
| | 建設会社への設計業務料 | 6,100万円 |
| | 合計 | 7,300万円 |

2. 収支見直し

事業活動収支予算書「教育活動収支」の収入の部では、前年度2,961百万円だったが、183百万円減少し、本年度は2,778百万円となった。主な要因は、学園全体で在籍者数が167名減少したことで学生生徒等納付金が144百万円、経常費補助金が9百万円減少するためである。

支出の部では、前年度2,989百万円でしたが63百万円減少し、本年度は2,926百万円となる。主な要因は、学園全体で予算縮減を行ったこと、施設整備に伴う修繕費が前年度比22百万円減少するためである。

「教育活動外収支」は前年度とほぼ同額であり、教育活動収支と教育活動外収支の合計である「経常収支差額」は146百万円の支出超過、前年度比119百万円の支出増となる。

「特別収支」については、今年度は、白梅学園創立80周年記念事業募金として50百万円の施設設備寄付金を見込み、特別収支差額は61百万円となる。

「基本金組入前当年度収支差額」は経常収支差額と特別収支差額の合計で85百万円の支出超過、前年度比76百万円の支出増となる。

「基本金組入額」は328百万円となり前年度比159百万円増となる。第1号基本金は126百万円となり前年度109百万円増加となる。内訳は、借入金返済等に伴う土地建物組入れ26百万円、備品及び図書資産増加に伴う組入れ56百万円、20年以上経過包括備品の計画除却18百万円、大短新棟建設に向けた建設仮勘定61百万円となる。第2号基本金は計画どおり200百万円組入れている。

「当年度収支差額」は、413百万円の支出超過、前年度比235百万円の支出増となる。

「前年度繰越収支差額」と「当年度収支差額」の合計である「翌年度繰越収支差額」は4,844百万円の支出超過となる。

資金収支予算の概要

(単位：百万円)

| 科目 | 2020決算 | 2021決算 | 2022決算 | 2023予算 (A) | 2024予算 (B) | 増減 (B - A) |
|---------------|---------|---------|---------|---------------|---------------|---------------|
| 収入の部 | | | | | | |
| 学生生徒等納付金収入 | 1,973 | 2,024 | 1,995 | 1,958 | 1,814 | △ 144 |
| 手数料収入 | 38 | 35 | 30 | 36 | 29 | △ 7 |
| 寄付金収入 | 26 | 10 | 11 | 30 | 58 | 28 |
| 補助金収入 | 864 | 921 | 955 | 908 | 910 | 1 |
| 資産売却収入 | 50 | 10 | 2 | 0 | 0 | 0 |
| 付随事業・収益事業収入 | 10 | 16 | 13 | 10 | 7 | △ 2 |
| 受取利息・配当金収入 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 |
| 雑収入 | 43 | 72 | 107 | 39 | 20 | △ 19 |
| 借入金等収入 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | △ 1 |
| 前受金収入 | 447 | 428 | 362 | 387 | 322 | △ 65 |
| その他の収入 | 681 | 717 | 654 | 661 | 647 | △ 14 |
| 資金収入調整勘定 | △ 521 | △ 540 | △ 542 | △ 417 | △ 331 | 86 |
| (当年度資金収入) ① | (3,615) | (3,696) | 3,589 | (3,615) | (3,477) | 137 |
| 前年度繰越支払資金 | 771 | 916 | 1025 | ** 1,032 | * 976 | △ 56 |
| 収入の部合計 | 4,386 | 4,613 | 4,614 | 4,647 | 4,454 | △ 193 |
| 支出の部 | | | | | | |
| 人件費支出 | 1,896 | 1,996 | 2,025 | 1,959 | 1,956 | △ 3 |
| 教育研究経費支出 | 569 | 577 | 593 | 685 | 623 | △ 62 |
| 管理経費支出 | 124 | 127 | 127 | 137 | 112 | △ 25 |
| 借入金等利息支出 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 借入金返済支出 | 52 | 23 | 22 | 22 | 19 | △ 4 |
| 施設関係支出 | 7 | 32 | 69 | 0 | 61 | 61 |
| 設備関係支出 | 114 | 49 | 38 | 19 | 104 | 85 |
| 資産運用支出 | 202 | 204 | 238 | 242 | 267 | 25 |
| その他の支出 | 544 | 629 | 611 | 605 | 599 | △ 6 |
| 資金支出調整勘定 | △ 39 | △ 49 | △ 75 | △ 65 | △ 61 | 4 |
| (当年度資金支出) ② | (3,470) | (3,589) | (3,646) | (3,605) | (3,679) | △ 75 |
| 次年度繰越支払資金 | 916 | 1,025 | 967 | 1,041 | 774 | △ 267 |
| 支出の部合計 | 4,386 | 4,613 | 4,614 | 4,647 | 4,454 | △ 192 |
| (当年度資金収支) ①-② | 145 | 109 | △ 7,233 | 9 | △ 203 | △ 212 |

** 2023年度予算は、2022年度決算確定前に作成している。

* 2024年度予算は、2022年度決算を反映している。

事業活動収支計算書

(単位：百万円)

| 科目 | 2020年度決算 | 2021年度決算 | 2022年度決算 | 2023年度予算 (A) | 2024年度予算 (B) | 増減 (B - A) |
|---------------------|----------|----------|----------|-----------------|-----------------|---------------|
| 収入の部 | | | | | | |
| 学生生徒等納付金 | 1,973 | 2,024 | 1,995 | 1,958 | 1,814 | △ 144 |
| 手数料 | 38 | 35 | 30 | 36 | 29 | △ 7 |
| 寄付金 | 26 | 9 | 9 | 10 | 8 | △ 2 |
| 経常費等補助金 | 847 | 902 | 940 | 908 | 900 | △ 9 |
| 付随事業収入 | 10 | 16 | 13 | 10 | 7 | △ 2 |
| 雑収入 | 43 | 72 | 107 | 39 | 20 | △ 19 |
| 教育活動収入計 | 2,937 | 3,058 | 3,094 | 2,961 | 2,778 | △ 183 |
| 支出の部 | | | | | | |
| 人件費 (退職給与引当金繰入額を除く) | 1,844 | 1,907 | 1,882 | 1,922 | 1,944 | 22 |
| 退職給与引当金繰入額 | 79 | 103 | 150 | 47 | 45 | △ 2 |
| 教育研究経費 | 759 | 771 | 788 | 877 | 817 | △ 60 |
| (うち減価償却費) | 190 | 194 | 195 | 192 | 194 | 2 |
| 管理経費 | 131 | 134 | 133 | 143 | 119 | △ 24 |
| (うち減価償却費) | 7 | 7 | 7 | 7 | 7 | 0 |
| 徴収不能額等 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動支出計 | 2,813 | 2,915 | 2,953 | 2,989 | 2,926 | △ 63 |
| 教育活動収支差額 | 124 | 143 | 141 | △ 29 | △ 148 | △ 120 |
| 収入の部 | | | | | | |
| 受取利息・配当金 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 |
| その他の教育活動外収入 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外収入計 | 2 | 2 | 2 | 2 | 2 | 0 |
| 支出の部 | | | | | | |
| 借入金等利息 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | △ 0 |
| その他の教育活動外支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 教育活動外支出計 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | △ 0 |
| 教育活動外収支差額 | 1 | 2 | 2 | 2 | 2 | 1 |
| 経常収支差額 | 125 | 145 | 143 | △ 27 | △ 146 | △ 119 |
| 収入の部 | | | | | | |
| 資産売却差額 | 0 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 施設設備寄付金 | 1 | 1 | 2 | 20 | 50 | 30 |
| 現物寄付 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 |
| 施設設備補助金 | 17 | 19 | 15 | 0 | 10 | 10 |
| 過年度修正額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特別収入計 | 19 | 26 | 18 | 21 | 61 | 40 |
| 支出の部 | | | | | | |
| 資産処分差額 | 8 | 3 | 2 | 3 | 0 | △ 3 |
| その他の特別支出 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 特別支出計 | 8 | 3 | 2 | 3 | 0 | △ 3 |
| 特別収支差額 | 11 | 22 | 17 | 18 | 61 | 43 |
| 基本金組入前当年度収支差額 | 134 | 167 | 159 | △ 9 | △ 85 | △ 76 |
| 基本金組入額合計 | △ 68 | △ 17 | △ 9 | △ 169 | △ 328 | △ 159 |
| 当年度収支差額 | 66 | 151 | 150 | △ 178 | △ 413 | △ 235 |
| 前年度繰越収支差額 | △ 4,619 | △ 4,553 | △ 4,402 | ** △ 4,344 | * △ 4,431 | △ 87 |
| 基本金取崩額 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 翌年度繰越収支差額 | △ 4,553 | △ 4,402 | △ 4,253 | △ 4,523 | △ 4,844 | △ 321 |

(参考)

| | 2020年度決算 | 2021年度決算 | 2022年度決算 | 2023年度予算 | 2024年度予算 | 増減 |
|------------------|----------|----------|----------|----------|----------|-------|
| 事業活動収支計 (= 帰属収入) | 2,957 | 3,086 | 3,115 | 2,984 | 2,841 | △ 143 |
| 事業活動支計 (= 消費支出) | 2,823 | 2,919 | 2,956 | 2,993 | 2,926 | △ 67 |

- * * 2023年度予算は、2022年度決算確定前に作成している。
- * 2024年度予算は、2022年度決算を反映している。

学生生徒園児数

(人)

| 入学者数 | 2024予算 | 2023予算 | 前年比 | 定員 | 定員充足率 |
|---------|--------|--------|------|-----|-------|
| 大学（除編入） | 184 | 206 | △ 22 | 225 | 81.8% |
| 大学（編入） | 6 | 9 | △ 3 | 30 | 20.0% |
| 短大 | 70 | 83 | △ 13 | 95 | 73.7% |
| 大学院 | 3 | 2 | 1 | 22 | 13.6% |
| 大短院計 | 263 | 300 | △ 37 | 372 | 70.7% |
| 白高 | 220 | 263 | △ 43 | 280 | 78.6% |
| 清修 | 45 | 44 | 1 | 60 | 75.0% |
| 幼稚園 | 40 | 42 | △ 2 | 70 | 57.1% |
| 学園合計 | 568 | 649 | △ 81 | 782 | 72.6% |

| 在籍者数 | 2024予算 | 2023予算 | 前年比 | 定員 | 定員充足率 |
|------|--------|--------|-------|-------|-------|
| 大学 | 847 | 913 | △ 66 | 960 | 88.2% |
| 短大 | 154 | 168 | △ 14 | 190 | 81.1% |
| 大学院 | 22 | 24 | △ 2 | 51 | 43.1% |
| 大短院計 | 1,023 | 1,105 | △ 82 | 1,201 | 85.2% |
| 白高 | 742 | 832 | △ 90 | 840 | 88.3% |
| 清修 | 213 | 198 | 15 | 360 | 59.2% |
| 幼稚園 | 145 | 155 | △ 10 | 210 | 69.0% |
| 学園合計 | 2,123 | 2,290 | △ 167 | 2,611 | 81.3% |

本務教職員数

(人)

| | 2024予算 | 2023予算 | 前年比 | 定員値 | 2024予算との 定員値比較 |
|----------------|--------|--------|-----|-----|-------------------|
| 専任 | 38 | 38 | 0 | 38 | 0 |
| 特任 | 3 | 3 | 0 | 4 | (1) |
| 助教 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 |
| 大学計 | 43 | 42 | 1 | 43 | 0 |
| 専任 | 7 | 7 | 0 | 8 | (1) |
| 特任 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| 助教 | 3 | 3 | 0 | 3 | 0 |
| 短大計 | 11 | 11 | 0 | 11 | 0 |
| 専任 | 42 | 43 | -1 | | |
| 常勤 | 7 | 6 | 1 | | |
| 白高計 | 49 | 49 | 0 | 49 | 0 |
| 専任 | 14 | 11 | 3 | | |
| 常勤 | 6 | 9 | -3 | | |
| 清修計 | 20 | 20 | 0 | 21 | (1) |
| 専任 | 8 | 8 | 0 | 8 | 0 |
| 特別 | 2 | 2 | 0 | 2 | 0 |
| 幼稚園計 | 10 | 10 | 0 | 10 | 0 |
| 専任 | 43 | 43 | 0 | | 43 |
| 期限付き | 0 | 0 | 0 | | 0 |
| 事務計 | 43 | 43 | 0 | 45 | (2) |
| (中高事務課有期契約職員★) | 5 | 5 | 0 | 5 | 0 |
| 学園合計（除く★） | 176 | 175 | 1 | 179 | (3) |
| 学園合計 | 181 | 180 | 1 | 184 | (3) |

※ 休職者等は人数に含み、その代替者は人数に含まない。

※ 兼務者は人数には含まれない。

※ 定員値は2021年12月20日付常勤理事会版